

白友会会報

編集責任者
城戸滝枝
大阪医科大学
附属看護専門学校
No.6
平成15年3月

会長 あいさつ

白友会 会長

勢川 瑠美子



21世紀を迎え、新しい意気込みを感じて
早3年目を迎えることになりました。

同窓生の皆様にはお健やかに佳き年を迎えられたことと存じます。白友会発足以来、同窓生の方々から、クラス毎の同窓会や各地で活躍されている状況等、機会があるたびに色々な形で知らせていただき交流をもつことができています。これらのことから母校との絆が深められていますことを実感し、大変心強く又うれしく思っております。

大阪医科大学、看護専門学校並びに附属病院が当高槻市で医学、医療の核として存

続し、地域住民のためになくはならない役割を果たしていることは周知の通りであります。

私達新制度1期生が入学しました頃は田園都市にふさわしいのどかな街でした。臨床実習の中で京大農場に兎の餌を採りに行ったり、夏には近くの池で蜚を採りしたり：と今では想像もできないような環境の中で育てられましたことを思い、感慨深いものがあります。その高槻市は昭和18年1月1日に市制を施行し、今年で60周年を迎えます。当初は3万人余りの人口が今では35万人を超える都市となり、さらに今年4月からは国の指定を受けて「中核市」高槻」として新たな歩みをはじめます。長い歴史と

豊かな文化に恵まれた都市として、多くの遺産を伝える歴史館等の設立も着々とすすめられています。

本学をとりまく高槻市にも目をむけられ、母校共々一層の発展を支援していただきたいことをお願い申し上げます。

尚16年は4年目毎白友会総会の年になります。多くの同窓生のご参集をいただけますように関係者一同、今からとりくんで参ります。お目にかかれる日を楽しみにし、皆様のご健康とご多幸を祈念致しております。



平成14年度 活動報告

白友会 副会長
城戸 滝枝

平成14年度の活動状況についてご報告申し上げます。

(活動報告)

- 1 役員会
- 2 『白友会』会報6号発行
- 3 母校教育活動への協力

大阪医科大学附属看護専門学校

行事

入学式・戴帽式・卒業式時『祝電』の打電

- 4 『白友会』会員名簿再確認

以上

今後の同窓会活動についてご意見やご提案がありましたらご一報をお待ちしております。



平成14年度



＜支 出＞		
項目	金額	備 考
事業費	513,060	会報5号発送
会議費	0	
管理費	336	文具代
予備費	110,010	祝電代(入学式、戴帽式、卒業式) 叙勲祝1名 他
合 計	623,406	
繰越金	10,528,852	

＜収 入＞		
項目	金額	備 考
繰越金	10,272,258	
会 費	880,000	新入会員2名 14年度卒業生86名
賛助広告	0	
合 計	11,152,258	

平成15年3月31日

実習病院の 近況報告

大阪医科大学附属病院

看護部長

神谷 美佐子

こちない中にも、婦長から師長へとだんだん定着しつつあります。『看護師』としての名称の変更と同時に、看護専門職者としての自覚と更なる努力を重ねていくことが重要と考えています。

緊張した中にもほっと一息すること

白友会の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。大阪医科大学附属病院は、先輩の皆様が大切に育んでこられました「患者中心の看護」を基盤に私達後輩は日々研鑽を重ねております。しかし、昨今の医療経済は大変に厳しく、大学病院としてより高度な医療・看護の資質を求められております。平成14年度の第4次医療改革では、医療安全対策室および褥瘡予防対策等が義務づけられ、その中心的役割を看護師が担っています。特に、医療事故防止に関しましては、日々の看護のふりかえりを行うと共に卒後教育にも力を注いでおります。更に、平成15年4月からは特定機能病院においては医療の包括化が導入されることとなりました。医療の包括化に伴い看護の機能や役割を評価されるためにも努力を重ねているところであります。看護の現場では、平成14年3月保健師助産師看護師法一部改正に伴う、呼称の変更はぎ

もありません。平成10年から開催されています院内コンサートも今年で5回目を迎え11月3日(日)午後2時から実施されました。コンサート会場は1階外来ホールをステージとし入院患者さまはじめ、約四百五十名の参集のもと行われました。一人で歩ける患者さまは勿論のこと、点滴を受けながらの車椅子での参加、またベッドのままご家族と一緒に耳を傾けられる様子は入院生活の中でのしばしの癒しとなったのではと感じております。院内コンサートは医学部の学生さんの演奏を中心に繰り広げられますが、その中でも第一内科の花房教授の奏でるバイオリン独奏は格段のハーモニーとなって聴衆の心に希望を運んできたのではと思います。また、例年10月第2土曜日に開催されます保育室の運動会。秋晴れのさわやかな日に恵まれ「がんばりまんのうた」の大合唱のもとに開催されました。この日はお父さん、お母さんを

はじめお爺ちゃんお婆ちゃんの大声援をうけ日頃の成長を精いっぱい披露していました。この様子を通して改めて看護スタッフの子供の躰の原点は「保育室」にあるのではと感じています。母親が安心して働ける環境、そして今そこで育った子供達が二世看護師として、看護の明日へ向かって羽ばたきはじめっており、看護職の先輩としてエールを送りたいと思っています。このように確実に看護の後輩は育っており、また今後も見守っていかねければと思っています。今後とも会員の皆様には暖かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



恩師からの メッセージ

健康寿命とケア社会

大阪医科大学衛生学公衆衛生学教授

河野 公一

わが国の健康づくり対策として新たに「健康日本21」が定められたことは、存じのことと思います。このなかで痴呆や寝たきりにならない状態で生活できる期間、すなわち「健康寿命」の延伸がうたわれています。地域の健康を示す指標には死亡率、平均余命などが用いられますが、WHOは「World Health Report 2000」の中で、世界191カ国の国民の健康寿命を示しています。

日本は74・5歳(男性71・9、女性77・2)で第1位であり、平均寿命だけでなく健康寿命においても世界のトップに立っています。ちなみに第2位はオーストラリア73・2歳(男性70・8、女性75・5)、以下フランス、スエーデンの順で、最下位の191位は激しい内戦が続くアフリカのシエラレオネの25・9歳(男性25・8、女性26・0)です。これはわが国がひと

えに平和で、国民の食糧、栄養事情が良く、また医療福祉や環境保健の対策が進んだお陰だと言えます。

このようにわが国は世界で一番健康に長生きできる国であると位置づけられました。この状態をいつまでも享受出来るのでしょうか。現在の医療を取り巻く環境は、世界に類を見ない急速な少子高齢化に伴う社会構造の変化により、大きく変わろうとしています。従来の医療中心の政策から保健、福祉の連携と充実を図る必要に迫られています。また医療技術の高度化により脳死判定や臓器移植、生殖医療など生命倫理の問題にも直面しており、国民の医療に対する認識もまた変化しています。

わが国の健康問題における様々な変化により、従来のケア(治療)を重視した考え方から、国民の健康に関与するあらゆる専門家による共同で行うケア、すなわち個人のライフスタイルに応じたOOL(生活の質)を大切に考えるケア社会の構築が重要になってきています。

ケアという言葉にはcare for「世話をする、面倒をみる」という意味と、care about「気にかける、見守る」の二つの

意味が含まれていますが、わが国では育児から高齢者介護に至るまで前者の「世話をする」が主となり後者の「見守る」という行為が忘れがちになっているとも指摘されています。米国の看護学者Dorothea E. Oremは、ケアをする(take care of)という言葉は見守る(watch over)という行為と、世話をす(look after)という行為を責任をもって引き受ける(be responsible for)ことであると述べています。

健康寿命の延伸とケア社会の構築こそが公衆衛生の目標であると自負し日々研鑽を続けています。

新 入 会 員 募 集

白友会の会員数は、毎年新入会員を迎え増えております。しかし、未だ白友会への入会方法をご存知でない方もあるように思われます。

下記連絡先をご利用の上、入会をお待ちしております。

白友会事務局 072-684-6249
会費 ; 10,000円 (終身会費)

思い出の窓

級友 平井淑子さんの
思い出
(旧姓山村淑子さん)

助産婦学校
昭和24年度卒業4回生

野口 ユリ子
(旧姓 西川)

平井淑子さんが過労死していたことを知った時、既に6ヶ月が経過していました。墓参しないと彼女の「死」に納得できない私でしたが、一方腰の手術を奨められている健康状態…そんな私の様子を見ていた娘は「私が付き添うから行こう」と鳥取県倉吉市への旅行の計画を奨めたのです。

「残念ながら、本日の大山は雲がかかっております。」と車内放送がありました。山容の美しい、信仰の山と慕われている山の姿を見たかったのですが、雲の彼方に隠されてしまった大山に平井さんの面影が重なって急に寂しさが込み上げてきました。

大山は雲の奥なり遠蛙

この時の一句です。

彼女の仏前に詣でた後、三朝の三徳山倫光院の墓所に御主人、御子息に案

内されて香華を手向けることが出来ませんでした。

平井さんは、日本看護婦協会鳥取支部の活動にも積極的で功績を残し大きな賞も受けております。

「お互いに退職したらゆつくり旅行をしようね。山陰路は、私が案内するからね。」と言ってくれていました。それが職場での突然死だったそうで、遺品整理をした関係者の方の話では、職場のボール箱から、ぎっしりつまった看護教育の資料が出てきたとの話でした。

彼女は看護教育者としての功績で、叙勲を受けた直後の「死」でした。

改めまして御冥福をお祈り致します。私にとって大阪医科大学附属助産婦学校の思い出は平井さんを抜きには語れないと思っています。

この度、投稿の機会に恵まれましたことに感謝しております。

勢川学校長からの一言

野口ユリ子様(旧姓西川ユリ子様)は私達新制1回生の寮生活の中で部屋長さんでした。和歌山の方言の出る暖かなお人柄で、心細く慣れない私達を励まし、サポートして下さいました。看護婦を目指した私の最初に出会った

大切な先輩の一人です。いつまでもお元気でいらして下さい。



この頃思うこと

新制看護婦学校

昭和27年度卒業2回生

竹内 ツヤ子
(旧姓 尾崎)

ダダン、コロコン、ダーンダーン、MRAが私の脳を探る。快い音ではない。

然しこの音もいずれ音楽に換えられ、しかもリクエストできる時代がくるかも知れない。その時は、サムテイラーの「ハーレムノクターン」か、イヴ・モンタンの「枯葉」を選ぶだろう。そんな夢をみてみる。

進歩、変化がめざましい分、課題も多い。昨今、ナースはキャップをはずし、患者さまと呼び看護師さんと呼ばれて久しい。

私は、脱帽のナースは好きではない。忘れものをした様でどうにも締めまりがない。なぜか清潔感を損なうシーンが多いからだ。

「患者さま」はどうでしょう。私自身接遇訓練の場でそう指導する一人だが、最近、これでいいのか?と、思う事がよくある。

そんな矢先、北区医師会報に寄稿された正岡昭先生の記事が目にとまる。

『私は、患者さまという呼び方の中に、金もうけのためという卑屈さとともに慇懃無礼な感じを受けて、どうにも好きになれない。ファミリーレストランなどで、マニュアル通りの対応をして、注文の最後に「以上ですか」と言う。「もつと食わねえのか?」といった感じが「以上ですか」という言葉に込められているようである。「患者さま」という言葉がマニュアル化されて無表情に反復されると、同じような慇懃無礼感を与えるだろう。』と書かれている。

今後の課題となるでしょう。

マザーテレサは、生涯ロザリオを胸に、ひたすら祈り続けられた。

「主よ、貧困のうちに生き死ぬ世界中の同胞のために働く私たちを、その事にふさわしい者にしてください」と。世の中どう変わりましても、私達は、常にふさわしい者でなければいけないのでしょね。



私の看護を

ふりかえって

二年課程全日制

昭和35年度卒業2回生

宮 武 明

「光陰矢の如し」の通り、母校を卒業してから早や40数年が経ちました。当時、男の看護婦さんが誕生した、と随分マスコミに騒がれたことも、つい昨日のようです。

青年期に結核で3年間療養し、健康を回復した時に神経精神医学教室ができたことも幸いして、高槻保健所長でおられた理事長の田中先生のお世話で看護人見習として採用して頂き、看護の道に進むことができました。そして2年後、男子学生の入学などとも考えられなかった時代に、三好元看護部長様が看護学校へ入れて下さって、皆

様の仲間入りができたのです。灰色の青春から一転して生き甲斐のある人生に視界が開け、そして今やバラ色(進行麻痺の多幸ではありません)の老年期と、私は三国一の果報者ですね。

現在、播州赤穂の隣、相生市の病院迄往復4時間半をかけて、元気に新幹線通勤を続けています。母校で教わった「仕事中心・患者様中心の看護」をモットーにして、「自分の入れる病院」を目指し、看護の種蒔きをしてから12年目に入りました。その種が揃って発芽して順調に生育しており、目指す目標に可成り近づくことができました。ですから、これからもさらに患者様やご家族に安心し、満足して頂ける癒しの看護の確立に向かって、全力投球していくつもりです。

私は今日迄、多くの患者様から一杯一杯教えて頂いて成長してきましたし、素晴らしい人々との出会いによって与えられたこの幸せを、日々感謝しながら、少しでも社会にお返しをしていく責任があります。品性と感性を兼ね備え、温かくて人間性豊かな、且つ臨床実践能力の高い後輩を一人でも多く育てて、地域医療に貢献することです。「あのDrに手術をして貰えたら死んでもよい」といわれた患者様がおられましたが、同じように「あの看護師さん

に看とられて死ねたら本望や」と云って貰えるように、仲間と共に、ずっと学びを深めていきたいと思う此の頃です。

看護への思い

二年課程定時制

昭和42年度卒業1回生

鴻 野 稔 子

(旧姓 井芹)



医療状況はますます厳しくなる一方で、医療の急速な進歩と高度化にともなう看護の役割も増大し、より質の高い看護師が求められる時代になり看護管理者として「患者様により良い看護を提供するには教育であり、人づくりである。」という信念で日々努力をしている。

思い起こせば学生時代を含め、今まで看護の道に足を踏み入れたことに

後悔したことは一度もない。卒業した後の私の周囲には素晴らしい先輩が多くおられ、看護の基礎をたたきこみ育てて頂いた。あれから35年、看護の実践の期間は自分の生活(結婚、出産、育児、夫との死別、再婚、姑の介護)など幾多の波乱があつたが、いろんな困難と危機に直面しても乗り越えることができたのは職場の上司や同僚に恵まれ、家族の理解と協力が得られたことはもちろんであるが、当時の看護学校の教務主任でおられた勢川先生の「いつもその時の時の気持ちをお大切に」と言われた言葉を支えに今日に至っている。

看護の現場は人生の縮図であり、人の生き方に触れ、その生き方の一番大事な部分に関わる仕事であることで、看護師自身の人生観や感性がその関わり方に大きく影響することを思うと、その時その時の自分の気持ちと向き合い、他人の満足を自分の満足につなげられる様、仕事を通じて学ばせてもらった。患者様やその家族、多くの先輩や同僚、他の専門職の方々との関わりを通じて看護師として育てられ、又子育てを通じて人間として成長させてもらい、まさしく看護は人類愛だと実感している。

看護師として当然の仕事をしなが

患者様から感謝され、お礼の言葉を頂くことはやりがいと仕事への励みにつながり、悩んだり感動したりしながら誇りをもって自分自身が輝けるよう後輩に言い伝えることができたなら、諸先輩に対して少しは恩返しになるのではないかと思っている。

私自身これからも常に前向きに歩むことを信条にこれまで看護実践の中で得たものを活用し、更に研鑽を積み、何かの形で看護とかわりながら生きていきたいと考えている。

私の看護(学生時代) をふりかえって

三年課程全日制

昭和63年度卒業3回生

大平 昌子

(旧姓 玉置)

(和歌山在住)

白友会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

この度は、このような機会をいただきましたことを感謝いたします。私は昭和63年度卒業です。前回の会報を読み、あの清泉寮がなくなったことを知り、時間の経過を思い知った次第です。私たちの学年は同窓会もために開いており、まだまだ若いつもりでした。し



かし、寮がなくなり、駅前などはもうすっかり様変わりしていました。きつと、病院の中でもいろいろなところでの変化があったことでしょう。でも、看護の心はきつと今の学生にも受け継がれていることと思います。

私は今、助産院を開業しており、看護学生を実習生として受け入れていきます。そこでいつも感じるのが、私たちの受けた指導がほんとうに良かったのだなあということ。今の学生の記録など見ると、内容がまとまっておらず、感想文だったり単語の羅列だったりします。私たちの頃は記録も「科学的根拠は」と口が酸っぱくなるほど指導していただいていたと思

ます。業務の間の学生指導は少し「めんどろだな」と思うこともありましたが、いやいや、私も学生時代は皆さんにご迷惑をかけたのだから、と、ために指導しています。自分なりの看護観を確立するためがんばってきた今までを学生たちに重ねています。

私の看護の基本は、大阪医大でたたき込んでもらいました。それは今も和歌山の田舎で細々と息づいています。そして次の世代の看護者達へとつながっていつてくれることでしょう。私達の学年は結構仕事を続けている人が多く、ちようど指導的立場になる年代です。ストレスもあるでしょうが、我が身を振り返って、根気よく指導しましょうね。私もまだまだ勉強です。最後になりましたが、諸先生方、ありがとうございました。

今看護師として 思うこと

二年課程全日制

昭和61年度卒業18回生

井上 明美

(旧姓 角田)

第2看護学科を卒業し早16年が経ちます。その間3年程子育てに専念した時期がありました。

現在は訪問看護ステーション東和会で看護師、ケアマネジャーとして勤務しています。子育てに専念した3年間を含め年を重ね、経験を積むことで新たに覚えてくることがあります。今年の自分だからこそ見えるもの、感じるものがあります。その時々を感じる心を大切にしたいと思っています。

訪問看護は慢性期、難病、ターミナル期、高齢者等多くの利用者がいます。人生経験豊かな高齢者又家族にとつて看護師として何が一番大切なのかと考えることがあります。適切な治療、ケアは勿論ですが会話の中から、家の雰囲気等から相手の気持ち、思いを敏感に感じ取り心穏やかに日常生活を送れ



るよう働きかけができたらと思っ
ています。そのためには自分自身の感性を
磨くことが大切だと思えます。

ターミナルケアについても在宅での
看取りを経験することがありました。
苦痛を緩和しその人らしい最期を迎え
られるようケアを行います。本人や家
族と一緒に色々な話をし安らかな時間
を共有することはとても大切な事だと
感じました。又在宅死を選択した家族
もやはり入院させていたほうがよかつ
たのではないかと気持ちが大きく揺れ
ます。毎日のケア、処置も無理のない
程度に家族と一緒にを行いました。一緒
にケアを行うことで家族も頑張つて介
護した、人任せにしなかつたという思
いから、大切な人が亡くなつた後の寂
しき、喪失感を緩和できたように思
います。ターミナルケアは家族の心のケ
アも含み、在宅死を経験した事で生き
方、死に方についてじっくり考えるよ
うになり又、自分自身を見つめ直す機
会となりました。

利用者、家族との関わりの中日々
学んでいくことが沢山あります。

「あなたに会えてよかった」と言つて
もらえるような看護師になれるよう、
頑張つていきたいと思えます。

定例同窓会

クラス会に出席して

二年課程定時制

昭和46年度卒業5回生

長澤 レイ子

(旧姓 福崎)

高鳴る胸をおさえながらまち遠しく
うれしく迎えた30年ぶりの再会、新大
阪駅中央口の集合に二人…三人…と集
まった。すぐにそれぞれの特徴がうか
び名前を呼び合い確かめあった。あの
時の笑顔と一緒に、皆嬉しさを隠しきれ
ずお互いの無事を喜んだ。一同そろつ
た所で宿泊地の有馬温泉へ、途中バス
の中は中央の席をおろしてのこみあい
ぶり。それに冷房がきかずこれには閉
口した。大阪から約2時間、神戸の奥
秘湯有馬は深々とした緑に囲まれ都会
の喧騒からはなれ静かなたたずまいの
中にあり沢を流れる水音の調べが心地
よく耳に伝わってきた。一息いれたと
ころで今夜はここでゆっくりやね…と
ゆとりの時間が拡がっていくのを感じ
た。勢川先生を囲みでの宴が始まり一
同が30年前にタイムスリップしながら
自分史を披露しあいそれぞれに涙あり



笑いあり楽しいひとときを過ごした。
先生は学校長として更に後輩の育成の
為に、医大に残った数名は看護部長、
副看護部長、師長として活躍されてい
る事を知り医大は益々発展の登頂期で
ある事を感じた。クラスメイトのほと
んどが仕事に携わりそれぞれの場所で
活躍し、抱える悩みや問題も共通する
ものだった。話は尽きる事もなく夜更
けまで青春時代の話に花が咲いた。今
回出席できなかった数名の近況も知り
たい所であったが風の便りに伝わって
くるのもやはり学校から友情を温めて
いる人であり、集った会でしか近況を
きけぬのも淋しいものだ。次回の級会

原稿募集

クラス会・身の回りの出来事・ニュースなど、
どんなことでも結構です。

皆様方の会報ですのでいっしょに考えてまいり
ましょう。

テーマ：自由です 写真1枚貼付のこと

容量：800字 (テーマ・氏名別)

締切：平成15年8月末日

楽しいお便りをお待ちしております。

にはぜひ再会できたらと思う。帰り際
旧友に会い母校を案内してもらった。
あまりの規模の広さにびっくり、私の
記憶には36病棟迄稼働しており工事が
着々と進んでいる最中だった。師長さ
ん方もすでに世代交代となり、まさに
私達の時代となっている。このように
して後生にバトンタッチしていくため
に皆頑張っている、と感させられた。
看護学校や寮にお邪魔する事はできな
かつたけれど今後益々母校と医大が発
展することを願いつつ家路についた。
又の再会を願いつつ…。

